学年	教　科	科　目	教科書名	副教材名
高３ 総合進学	国語	古典Ｂ	精選古典Ｂ　古文編・漢文編 （東京書籍）	下記参照

1.　授業のねらい

・これまでの高校１・２年次で学習した文法事項の確認及び、総復習を行います。
・基礎的な用言の復習から、助動詞・敬語文法の確認、及び大学入試レベルの古文読解力を養います。
・共通テストや、私大入試に対応するべく、様々なジャンルの文を扱い、実践力・応用力を磨きます。
・古典作品を通して，日本文化やそれに影響を与えた中国文化に対する理解と関心を深めましょう。

2.　授業のすすめ方

・授業をすすめるにあたり教科書・ノート・文法書・古語辞典・資料集を準備しておくことを前提とします。
・授業は【導入】→【展開（予習に沿った発問・板書）】→【まとめ・確認】を基本にして行います。
・授業で演習問題を取り扱う際は、①時間を計って問題を解く⇒②解説⇒③答えあわせ・まとめという流れで進めていきます。
・ipad を使用し、ロイロノートやClassi を用いて，理解度を確認しながら授業をおこないます。
・授業の理解度を深めるため，各自でスタディサプリによる講義動画を活用して下さい。

3.　学習上の留意点

・ノートまたは教科書・テキスト・配布プリントに、板書事項や口頭で説明したことを記録し、学習に役立てて下さい。
・学習内容の定着を図るために、調べること・復習すること・質問することを心がけて下さい。
・古語辞典・文法書・資料集等を活用しながら，入試問題を解く際の読解力がつくように古文・漢文を読んでいきましょう。

4.　副教材・参考文献

・『助動詞・助詞・敬語・識別 入試対策強化解釈力の超トレーニング』（尚文出版）　※　授業や課題などで使用
・『新国語総合ガイド　五訂版』（京都書房）　※　資料として使用
・『基礎から学ぶ解析古典文法』（桐原書店）　※　資料として使用
・『重要古文単語３１５』（桐原書店）　※　主に小テストで使用
・『古文助動詞・漢文句法マスターノート』（数研出版）　※　予習・復習・授業で使用
　◎必要に応じて各種手作りのプリント，デジタル教材を使用します

5.　評価の視点・テスト・課題等

・定期考査，小テスト，提出物，ロイロノートやClassi の提出課題等で判断します。
・定期考査では授業内容を理解しているか，応用力がついているかを問います。（「古典」として，100 点満点で実施）
・小テスト（重要な古文単語・文法事項などに関して）を実施して，平常点として評価します。
　※範囲および実施日については，別に配布する予定表を参照してください。
・平常点は１学期20 点、２学期10 点で評価します。
・長期休暇中の宿題などについても，提出や定期考査範囲での出題により，評価の対象とします。

6.　定期考査

・授業で学習したことを中心に出題します。授業で扱った文章に関する文法事項や文学史といった知識問題も出題し、「古典Ｂ」として１００点満点のテストを実施します（年３回実施予定）。
・初見の本文による応用問題も出題します（副教材や入試と模試の問題による出題，既習の内容に関連する問題 など）。
・定期考査は、教科書・テキストの説明で使用した各種資料や、授業で行った説明などを十分に把握しておいて下さい。
・使用したプリントやデジタル教材などの授業に関わる全ての資料を把握しておきましょう。

※　状況によって内容の変動が生じる場合があります。

7. 授業計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4 5 6 7	○古文分野 ・軍記物語 ・日記 ・説話 ○漢文分野 ・思想 ・史話 （中間考査） ○古文分野 ・物語 ・評論 ・紀行文 ○漢文分野 ・史話 ・日本漢文 ・詩 （期末考査）	口語訳・内容読解及び、重要古語や文法事項の確認を発問によって行う 授業ノート、各種プリントや課題の提出を評価する 定期考査（中間・期末考査）	「古文」 用言の活用の徹底理解 助動詞の意味と接続の確認 紛らわしい語の識別 敬語に関する知識の定着 敬意の対象の確認 登場人物の正確な把握 的確な口語訳文の作成 背景や古典常識の確認 和歌の修辞と解釈 文学史の整理 「漢文」 訓読法の確認 正確な書き下し文の作成 置き字、再読文字の確認 漢文の構造の特徴把握 句法を踏まえた口語訳 歴史的背景の確認
二学期	9 10 11 12	○古文分野 ・評論 ・俳諧 ・近世の文章 ○漢文分野 ・史記 ・思想 ・文 ○問題演習 ・大学入試の過去問を解き、その解説を行う ・古典文学史（中古・中世・近世の文学作品） （期末考査）	口語訳・内容読解及び、重要古語や文法事項の確認を発問によって行う 授業ノート、各種プリントや資料の提出を評価する 定期考査（期末考査）	「古文」「漢文」 既習の学習項目の最終点検 社会背景や文化的側面への考察をふまえた多角的な視点での作品理解 「問題演習」 古文・漢文の両分野における問題解法の習熟 解答時間の配分 問題解答のための知識・技能の拡充 出題意図への理解と、解答の根拠の確認
三学期	1 2 3			

※シラバスの内容は進度によって変更する場合があります。